

母のさかしもの

認知症とともに生きる

活用ガイド

解説書・ワークシート



東映株式会社

1. 企画意図・ねらい

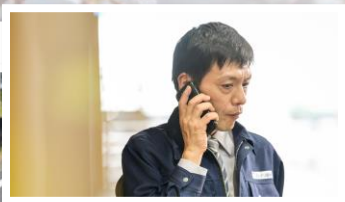
誰しものが認知症に関わる可能性のある現代社会において
認知症の人が尊厳を保持しながら希望を持って暮らしていくためには
周囲の人が認知症に対する正しい知識と理解を持つことが重要です。

認知症は人によって症状も様々です。
本企画ではある家族の視点を通じて、症例を織り交ぜながら描くことで
認知症に関する理解を深め、認知症の人の不安や家族の悩みを知り
本人や家族の孤立を防ぐために介護者や地域の交流の重要性を示すと同時に
本人の気持ちに寄り添うことの大切さを学びます。

認知症の人を含むすべての人が相互に人格と個性を尊重しつつ支え合いながら
『ともに生きる』社会の実現をめざして、このドラマ教材を制作しました。

2. はじめに ～介護する家族がたどる「4つのステップ」～

家族が認知症に直面した際、受け入れるまでに4つの心理的ステップがあると言われています。4つの段階を踏むことで介護者自身が認知症に対する理解も深まり、本人の気持ちに寄り添って家族のあるがままを受け入れるようになります。



第1ステップ
とまどい・否定

認知症の人の言動や行動の異常さに対してとまどい、「認知症のはずがない」と認めずに否定する時期

認知症への理解の不十分さからどう対応すべきかわからず混乱し些細なことで怒ったり叱ったり介護を拒絶したくなる時期

第2ステップ
混乱・怒り・拒絶

第3ステップ
割り切り・あきらめ

怒っても無駄で「病気だから仕方ない」と割り切るようになる時期

認知症への理解が深まり、認知症の家族や自分自身、認知症の状態そのものを受け入れることができる時期

第4ステップ
受容



※このドラマに登場する主人公家族は、物語が始まる時点では第1ステップと第2ステップの間という設定で描いています。

3. 登場人物



江村隆史(50)
主人公・会社員



江村快人(14)
隆史の息子・中学生



江村早苗(77)
隆史の母〔認知症〕



深川 渚(38)
ケアマネジャー



五十嵐修平(59)
隆史の上司

※認知症の症状は人によってさまざまです。
このドラマに登場する江村早苗の症状や対応はあくまで一例です。 -3-

4. 解説：主な場面とセリフ・学習ポイント

○公園近くの道（夕方）

肩で息をしている江村隆史(50)が頭を下げる。

隆 史「申し訳ございませんでした！」

気の毒そうな顔をする警察官の隣に、

江村早苗(77)が不服そうな顔で座っている。

警察官「(小声で)江村さん、これで3回目です。」

お母様のためにも、できる限り近くにいてあげてください」

隆 史「……すみません」

警察官「介護サービスなんかも視野に入れたほうが……」

隆 史「それ以前に、検査を受けることも嫌がってまして……」

早 苗「なによ、私を除け者にして。」

ちょっと迷っただけなのに、大げさな」

隆 史「……なあお袋、そろそろ病院に行かないか？」

早 苗「うるさいわね、大丈夫って言ってるでしょ！」

フンツとそっぽを向く早苗。

警察官「せめて家族や親戚には頼っていかないと、あなたの体力が持ちませんよ」

隆 史「……本当に申し訳ございませんでした」

疲労が溜まっている隆史の顔。



Check!!

👍 ポイント【症 例】

中核症状とは脳の細胞が壊れることによって直接起こる症状のことで、記憶障害、見当識障害、理解・判断力の障害、実行機能障害などがこれにあたります。早苗の場合は何度も道に迷っていることから、場所の認識がわからなくなる「見当識障害」が現れています。見当識障害は記憶障害と並んで比較的初期から現れる症状で、他にも時間や季節の感覚が薄れていきます。

Check!!

👍 ポイント【早期診断の重要性】

本人が病院を嫌がったり、家族が認知症と診断されることを恐れたりといった理由で受診・診断が遅れてしまうことが多くあります。認知症の早期発見・早期治療は、適切なケアを行う上で最も重要です。本人に合わせた治療や福祉サービスを活用し負担を軽減するためにも、ひとりで不安や悩みを抱え込まずに早めに専門の医療機関の診断を受けましょう。

4. 解説：主な場面とセリフ・学習ポイント

○江村家・洗面所（朝）

パジャマ姿の早苗、何かを探している。

早 苗「ないわないわ……」

引出しを開けたり、洗濯機の中をのぞいたりする早苗。



○江村家・キッチン（朝）

早苗がフライパンを出し料理の準備を始める。

隆史、駆け足でキッチンへ。

隆 史「おい……さっき食べたばっかだろ」

早 苗「まだ食べてないわよ」

隆 史「いや食べただろ、ご飯と味噌汁に、それにリンゴ」

隆史、早苗からフライパンを奪って仕舞う。

早 苗「なにすんのよ！もう、もうもうもう！」

隆 史「わかった、わかったから、痛い、痛いよ！」

暴れ始める早苗。隆史をバンバン叩く。



Check!!

ポイント【症 例】

中核症状の中でも見当識障害と合わせて代表的な症状が「記憶障害」になります。脳の一部の細胞が壊れ、目や耳から入る情報を蓄えることができなくなり覚えられない、すぐに忘れるといった記憶障害が起こります。「何を食べたか思い出せない」などの加齢によるもの忘れに比べ、食べたこと自体を忘れてしまうのが記憶障害です。また、置き忘れや紛失が頻繁になっていきます。

Check!!

ポイント【性格・感情の変化など】

認知症によって正しい判断ができずに、周囲の人にとって不可解な言動や行動が増えていきます。やがて周りからの注意や否定的な言葉も多くなり、それが本人の自尊心を傷つけることにつながります。その結果、不安や怒りから周囲に攻撃的になり、暴言や暴力に至ってしまう場合があります。力や言葉で対抗することは絶対にせず、心理的・物理的に距離を置いて、周囲や専門医に相談しましょう。

4. 解説：主な場面とセリフ・学習ポイント

○隆史の会社・オフィス（昼休み）

数名の従業員が休憩中、ひとりカップ麺を食べる隆史。
パソコン画面に

『認知症の人への対応の心得

驚かせない、急がせない、傷つけない』の記事。

隆 史「ちゃんと食べてるかなあ……」

パソコン画面を読みながらため息をつく隆史。



Check!!

👍 ポイント【対応】

認知症の人と接するときは、次のような点を心がけましょう。

＜対応の基本姿勢：認知症の人への対応の心得 “3つの「ない」”＞

1. 驚かせない 2. 急がせない 3. 自尊心を傷つけない

●その上で具体的な対応の7つのポイント

◇まずは見守る

◇余裕をもって対応する

◇声をかけるときは1人で

◇背後から声をかけない

◇やさしい口調で

◇おだやかに、はっきりした話し方で

◇相手の言葉に耳を傾け、会話は本人のペースに合わせて

4. 解説：主な場面とセリフ・学習ポイント

○江村家・キッチン（朝）

出勤前の隆史、急いで朝食の目玉焼きを作っている。

その横、男物の服を着た早苗が何かを探している。

隆 史「俺の服だよ、それ……もう（と、火を消す）」

隆史、早苗の服を取りに、キッチンを離れる。

早 苗「そうだ、早くお父さんに作ってあげないと……」

その隙に早苗、コンロに火をつける。

早苗の服を持った隆史、戻ってくる。

隆 史「（火を消して）だから危ないって！もう……、
今後一切、台所には立たないでくれ」

早 苗「……」

隆 史「とりあえず着替えよう、……ね、一緒に」

早 苗「……うるさい、うるさいうるさい！」

思わずチツと舌打ちをしてしまう隆史。

隆 史「頼むから言うこと聞いてくれよ」

早 苗「なによ……」

隆 史「（時計を見て）今日は大事な会議があるんだよ……
いいから、着替えよう」

隆史、早苗の服を無理に脱がそうとする。が、肘で払う早苗。

早 苗「いや！」

隆 史「もう勝手にしろよ……」

隆史、キッチンから離れる。



Check!!

👍ポイント【症例】

ボタンの掛け違いやシャツを前後に着たり、靴を左右逆に履いたり、季節感や相応しい恰好がわからなくなるため夏場に冬物を着てしまうなど、本人は普通に服を着ているつもりでもチグハグな服装になることがあります。その際は、力づくで無理矢理に着替えさせたりせず、簡単に着脱できる衣服を選び順番に手渡して着させるなど、自分でできるところは本人で着てもらい、必要に応じて手助けをするようにしましょう。

4. 解説：主な場面とセリフ・学習ポイント

○江村家・キッチン（朝）

隆 史「もう勝手にしろよ……」

隆史、キッチンから離れる。

息子の江村快人(14)が心配そうに近づく。

快 人「おばあちゃん大丈夫？ あとこれ、お守りだから、持ってて」と、早苗の首にお守りを掛ける。

快人、早苗の下が濡れていることに気付く。尿失禁を起こした。

快 人「！？ お父さん、おばあちゃんが……」
戻ってきた隆史、床を見て思わず立ち尽くす。



Check!!

ポイント【症 例】

認知症が進むと排尿のコントロールが困難になります。記憶障害や判断力の低下、排尿のタイミングを認識できないことなどが原因です。対策としては尿漏れパッドやおむつの使用、定期的にトイレを促したり、トイレの場所を明確に表示したりすることが有効です。また、60歳以上の高齢者の50%以上が尿失禁があるとも言われていますので、「認知症にかかわらず誰しもが通る道」と羞恥心を和らげてあげ、本人に安心を与えることも大切です。

○道（夜）

徘徊する早苗。見知らぬ男にぶつかりよろける。

首にぶら下げたお守りが揺れている。

横断歩道を渡る早苗。途中で信号が赤になるが突き進む。
と、激しいクラクションの音。



Check!!

ポイント【症 例】

早苗の場合は隆史から怒られ否定され、不安が極限まで高まってその場から逃げ出し、あてもなく歩き回っています。もしかすると元々住んでいた家に帰ろうとしているのかもしれませんが、しかし、赤信号を認識できなくなっており、一人で出かけるのはとても危険です。まずは本人の視点に立って、その人の行動の原因や背景を考えてみましょう。そして本人にとって安心できる環境を心掛けることが、こういった行動・心理症状の予防につながります。

4. 解説：主な場面とセリフ・学習ポイント

○江村家・リビング（夜）

隆史と快人、荒れた部屋を黙々と片付けている。

隆 史「……ありがとな」

快 人「……うん」

隆 史「でも、どうしてばあちゃんの居場所がわかったんだ？」

快 人、スマホを見せる。

快 人「入れてたから……GPS」

スマホにはマップ画面。GPSの位置情報がわかる。

× × ×

○江村家・リビング（朝・回想）

早 苗「なにすんのよ！ もう、もうもうもう！」

隆 史「わかった、わかったから、痛いって……」

二人を見ながらスマホで『認知症 介護 対策』と調べる快人。

× × ×

快人、お守り(GPS)を早苗の首にかける。

× × ×

○江村家・リビング（夜）

隆 史「…そっか、いや、すごいな、快人」

快 人「……」

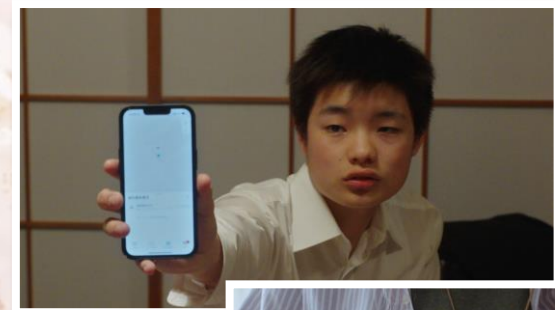
Check!!

👍ポイント【対策】

認知症の徘徊・ひとり歩き・迷子を予防および早期発見するためには、対策グッズなどを活用する方法があります。

- ◇GPSキーホルダーを身に付ける
- ◇玄関にセンサーを設置する
- ◇着用している衣服や靴に住所・氏名・連絡先の記載された名札を付ける
- ◇見守り・SOSネットワーク事業など自治体のサービスへ事前に登録しておく
- ……etc.

対策グッズやサービスを効果的に使うことで事件事故などのトラブルを軽減することができます。



4. 解説：主な場面とセリフ・学習ポイント

○江村家・リビング（夜）

隆史と快人、荒れた部屋を黙々と片付けている。

隆 史「なんかごめんな、快人にまで心配させちゃって……
でも快人は心配しなくていいから。
今まで通り普通に生活してくれれば……
俺が全部やるから……な」

隆史、無理に笑う。少しの間。

快 人「……強がらないでよ」

隆 史「……え？」

快 人「どうして全部一人でやんの」

隆 史「……」

快 人「俺だってやるよ……だって、おばあちゃんにめっちゃ
遊んでもらったし、美味しいご飯だって作ってくれたし、
運動会も授業参観も見に来てくれたし……
だから、一人で抱え込まないでよ」

隆 史「快人……」

快 人「それに、お父さんまで病気になったら……
俺、どうしたらいいの？」

隆 史「……」

快人の指摘に気づかされる隆史。



Check!!

👍ポイント【対応】

家族が認知症になると「できることはすべて自分の手でやってあげたい」「親孝行をしてあげたい」といった理由で、介護を優先し自分自身の生活を犠牲にしてしまう人は少なくありません。しかし、介護は長く続きますので、抱え込んで自分ひとりで頑張り過ぎずに、家族・親族、ケアマネジャー、地域包括支援センター、専門医、デイサービス・ショートステイ・訪問看護といった介護サービス、施設入居の検討など、頼れるものには頼っていきましょう。また、家族会や認知症カフェといった交流の場で日頃の不安や悩みを共有したり、介護についての情報交換をしたりすることも大切です。

4. 解説：主な場面とセリフ・学習ポイント

○隆史の会社・オフィス（夜）

隆史、ぼーっとモニターを見ている。

と、机に缶コーヒーを置く五十嵐。

五十嵐の声「ほれ」

五十嵐、笑いながら隆史の背後に立つ。

五十嵐「ま、大変だよな、認知症の介護って」

隆 史「え……どうしてそれを？」

五十嵐「俺な、部下の気持ちと競馬だけは読むのが得意なんだよ」

隆 史「……」

五十嵐「突っ込めよ～……なくしたんか？ 喜怒哀楽」

隆 史「……」

五十嵐「実はな、うちの妻も認知症なんだよ。若年性の認知症」

隆 史「……そうなんですか？」

五十嵐「最初聞いた時は受け入れられなくてなあ……

けど俺があたふたしてる間にも症状は進行するし、

声をあげて暴れ始めるし、頼れる人もいないから大変だったよ」



Check!!

ポイント【若年性認知症】

認知症は高齢になるほど発症しやすいと言われていますが、65歳未満の若い世代で発症する場合があります、それを「若年性認知症」と呼びます。

若年性認知症の年代は、働き盛りで就学期の子どもが居たり、親を介護していたりすることも珍しくありません。仕事を辞めなければならなくなると、経済的困難に陥ってしまいます。育児・家事に関わる困難など、高齢者の認知症とは異なる問題が生じていきます。

また、高齢での発症に比べて、周囲の人や家族も「うちに限ってそんなことはないはず」と病気を理解し受け入れるまでに往々にして時間がかかると言われています。しかし、若くして認知症になったからといって人生終わりなどでは決してありません。本人を支える職場とスキルがあれば仕事を継続できる場合もあります。そのためには職場や地域での若年性認知症に対する正しい理解や手助けがとても重要になります。

4. 解説：主な場面とセリフ・学習ポイント

○江村家・リビング（夜）

五十嵐「俺さ、妻の世話をするうちに、
いつの間にか自分が介護士になったように接してたんだ。
まるで患者と介護士、みたいに」

隆 史「……」

五十嵐「でも、本当は夫婦なんだよな……だから今までと同じように、
うわさ話をして、つまらない喧嘩もして、テレビを見ながら
『面白いのやってねえな』なんて愚痴ったりして、
会話をするようにした」

隆 史「会話……？」



Check!!

👍ポイント【対応】

本人は見当識障害によって人の記憶が薄れ、相手が誰かわからなくなってしまうかもしれません。しかし、そこに居るのは「認知症の人」ではなく、家族や友人の〇〇さんが認知症になっただけのこと。本人の意思を尊重し、人としての尊厳を決して傷つけてはいけません。

○江村家・洗面台（夕方）

快人、顔を洗っている。

そこに早苗が割り込み、鏡と会話をし始める。

早 苗「（鏡を見て）あら、あなた髪の毛、真っ白じゃない。

私も最近ほら、こんなになっちゃって……ねえ」

髪を触る早苗。隆史もやってきてのぞく。

隆 史「お袋、あなたの髪って、自分の髪だぞ」



Check!!

👍ポイント【症例】

鏡に映った自分の姿に反応する症状を「鏡現象」と言います。これはアルツハイマー型認知症の中期から後期にかけて現れる症状の一つです。鏡に映っている自分の顔を、自分の顔だと認識できなくなるために起こります。

4. 解説：主な場面とセリフ・学習ポイント

○認知症カフェ（昼）

隆史、椅子に座りケアマネジャーの深川渚(38)に相談している。

渚 「……なるほど、髪を染めてあげたんですね」

隆史 「はい、でも徘徊は続いていて。もう、何が理由なんだかさっぱりで……」
思い悩んだ顔の隆史。

渚 「それじゃないですか？」

隆史 「え？」

渚 「その顔」

隆史 「（触って）……顔？」

渚 「（笑い）ごめんなさい。
ヘンな意味じゃないですよ。
きっと不安なんですよ」

隆史 「不安……？」

渚 「徘徊に理由なんてありません」

隆史 「……え？」

渚 「お母様は長年住んでいた家をいきなり離れ、新しい家に住み始めた。
しかも家には怖い顔をした男がいる。料理をしたくても、危ないからと怒られて
台所にも立たせてもらえない……もうこれ以上迷惑をかけたくないと、
安心できる場所を求めているのかもしれない」

隆史 「じゃあ髪を染めてあげたいってのは私のエゴで、徘徊とは関係なかったんですね……」

隆史 「……その、不安を和らげる方法はあるんですか」

渚 「寄り添うことです。お母様の気持ちに寄り添えば、きっと笑顔になりますよ」



Check!!

👍ポイント【対応】

具体的な目的地がないのに出て行って歩き回ってしまうのは、その場にいることが不安だったからです。その不安を少しでも和らげるためには、本人の気持ちに寄り添い、さりげなく自然に接することが大切です。認知症になった早苗の心や気持ちは本人にはわかりません。しかし、隆史自身が今のままの母・早苗と一緒にいたいという気持ちが本人に伝われば、きっと早苗も安心して暮らしていけるのではないのでしょうか。

5. ワークシート①

このドラマ教材の視聴前・後に、次のようなことを考えてみませんか？

視聴前：「認知症」と聞いてどんなことを思い浮かべましたか？自由に書いてみましょう。

視聴後：「認知症」のイメージは変わりましたか？考えが変わった点があれば書き出してみましょう。

早苗は結局、何を探していたと思いますか？あなたなりの答えを書いてみましょう。

認知症の人とともに生きるために、あなた自身でできることは何があるか考えてみましょう。

5. ワークシート②

普段、介護で苦勞している点（またはこれから苦勞しそうな点）は、どんなことでしょうか？

その苦勞している（しそうな）点を解消するために、周囲や地域の人にはできることはありますか？

自分がもし認知症になったら、どのような暮らしをしていきたいか考えてみましょう。

今日の講習・ドラマ教材を振り返って、感想やこれから取り組みたいことなど自由に書いてみましょう。

視聴後にはぜひ家族や周囲の人とお互いの意見や考えを交換し共有してみてください。

6. おわりに

認知症は誰しもが関わる可能性があります。
自分や家族、友人知人がいつ認知症になるかわかりません。
したがって自分事としての認識を持ち
認知症の人が尊厳と希望を持って同じ社会でともに生きるために
正しく理解をすることが周囲の支援の第一歩です。

介護は長く続き終わりが見えないものかもしれませんが
少しでも本人や家族の不安が取り除かれ
前向きに暮らしていけるよう
このドラマ教材がその一助になれば幸いです。

企画・製作：東映株式会社教育映像部
監修：東京都立松沢病院名誉院長 齋藤正彦